

富士山の火山活動解説資料（平成 26 年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものではありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

萩原遠望カメラ（富士山山頂の東南東約 18km）及び中部地方整備局が朝霧（富士山山頂の西約 14km）、富士砂防事務所（富士山山頂の南西約 17km）に設置してあるカメラによる観測では、今期間、噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震が増加しました。その後、地震活動は低下してきています。

深さ 15km 付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況で経過しています。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS^{注）}連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

注）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

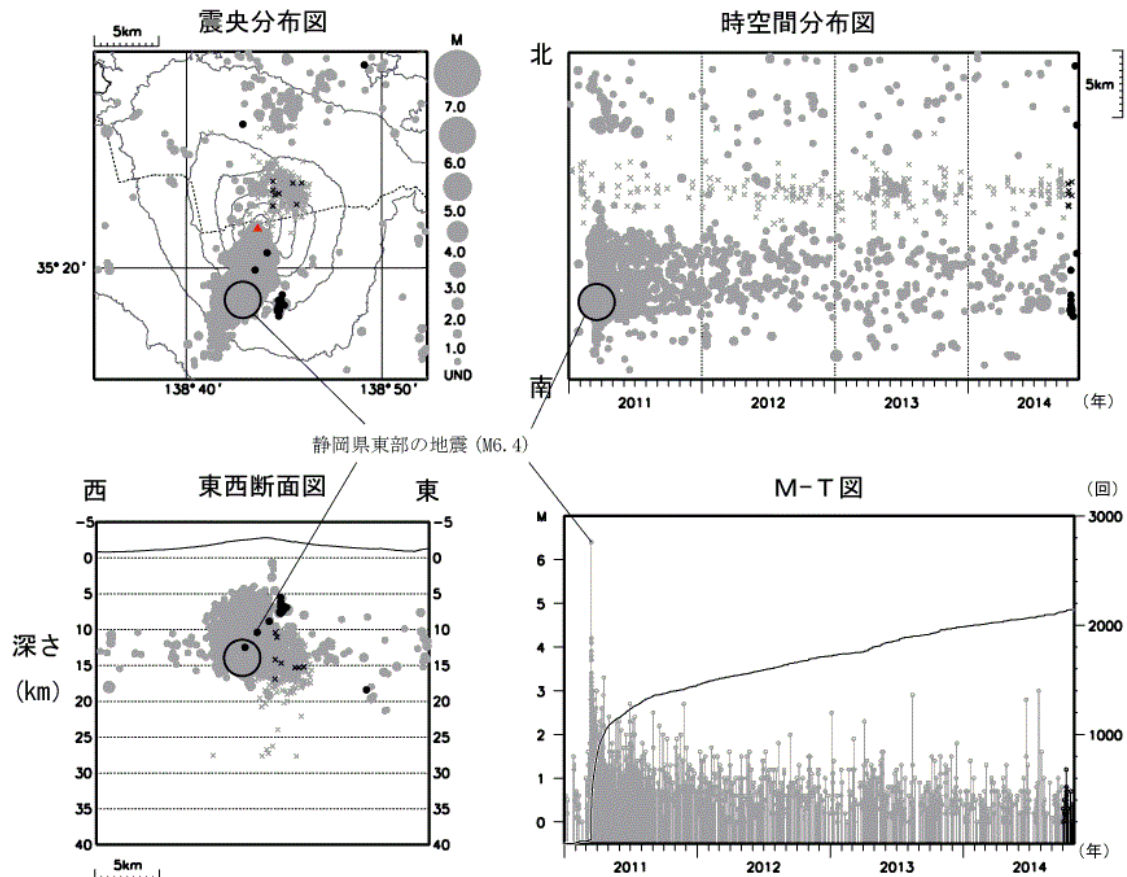
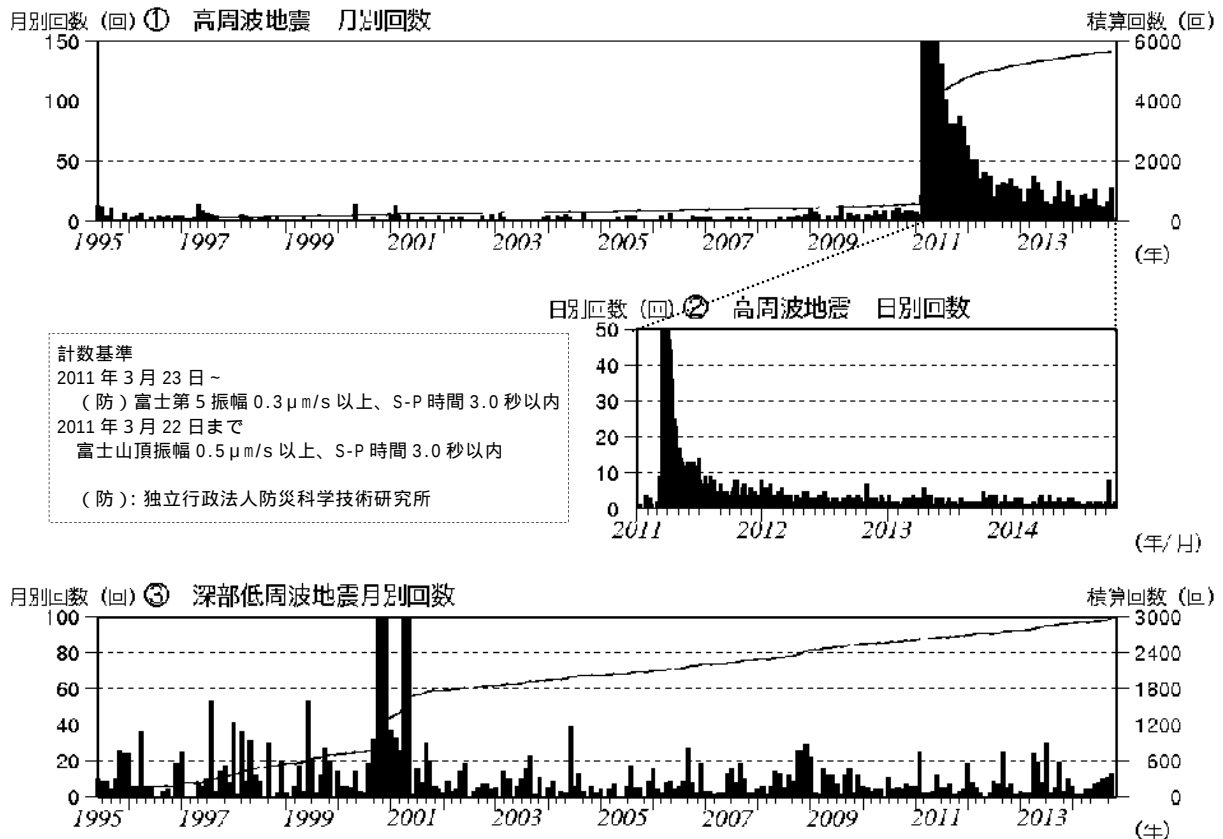


図 1 富士山 山頂部の状況
（10 月 17 日 萩原遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 11 月分）は平成 26 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



● : 2011 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 9 月 30 日 ● : 2014 年 10 月 1 日 ~ 10 月 31 日
× は深部低周波地震を表します。M (マグニチュード) は地震の規模を表します。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

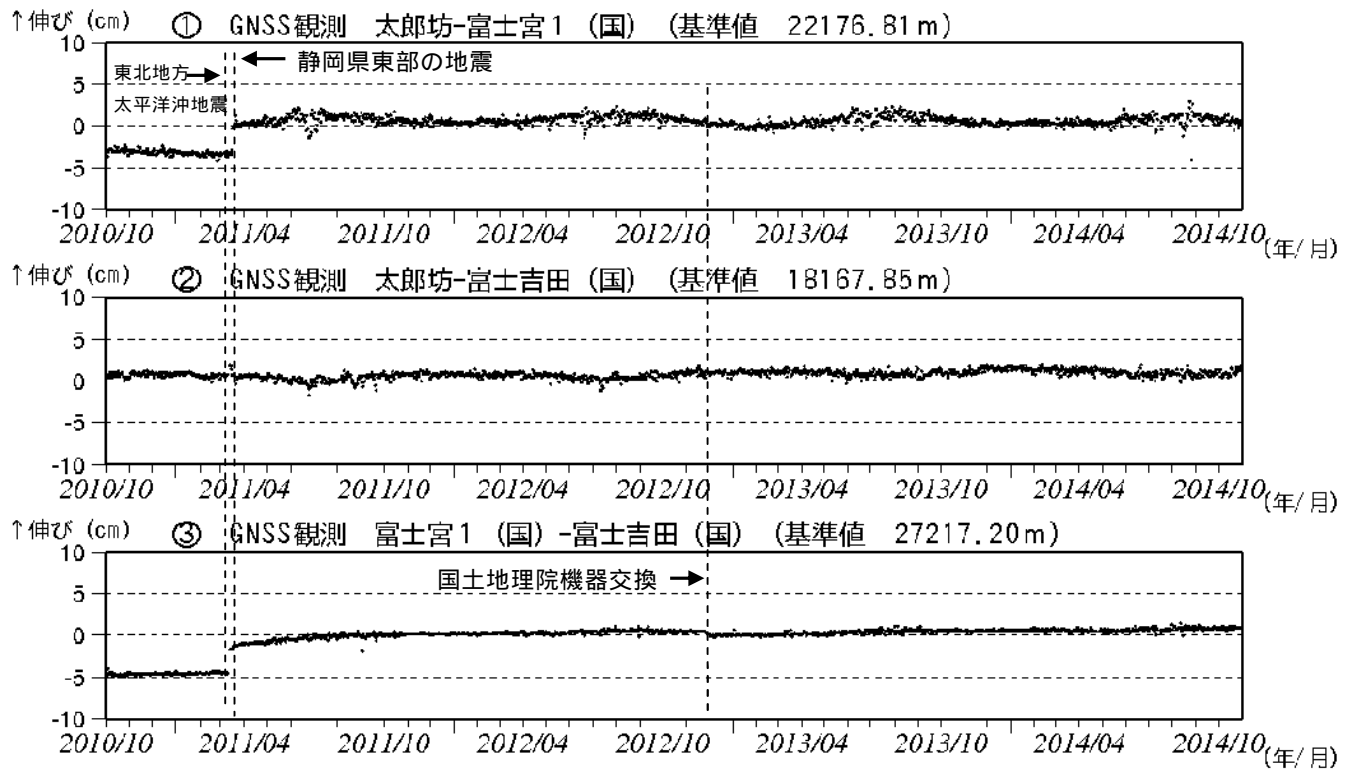


図4 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日～2014 年 10 月 31 日)

(国): 国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震の影響により、ステップ状の変化がみられます。

～ は図5のGNSS基線 ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

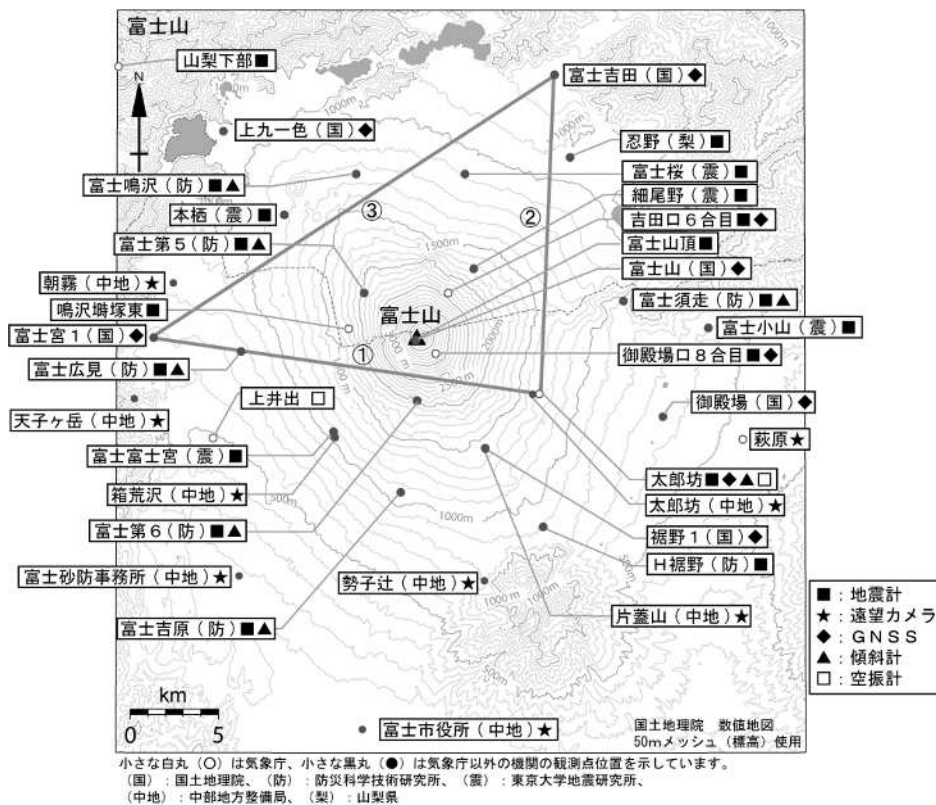


図5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線 ～ は図4の ～ に対応しています。